

攻撃性が高まる仕組み

<作成: stnv基礎医学研究室>

攻撃性が高まる状況

挑発を受けたとき



脳内で増加する物質

テストステロン

エストラジオール(E2)

アロマターゼ(ニューロン中)

挑発を受ければ、男女に拘わらず攻撃性が高まることになる。主要な男性ホルモンである**テストステロン**は、視床下部や扁桃体中の**アロマターゼ**によって女性ホルモンの一つである**エストラジオール(E2)**へと変換され、その**E2**が攻撃性を高めることになる(あくまで、脳内での**E2**の話である)。

特定のものへの愛情が深まったとき



オキシトシン

テストステロン

エストラジオール(E2)

アロマターゼ(ニューロン中)

脳内のオキシトシンは、愛情や信頼性を高めるように働くが、対象外のものについては、それを排除したり、場合によっては攻撃するように働く。

武器を手にするだけでテストステロン濃度が高まる。

絶対に守らなければならない対象があるとき



アロマターゼ(ニューロン中)

エストラジオール(E2)

オキシトシン

【攻撃性を抑える為に】

アロマターゼを阻害できる物質を摂る: アピゲニン、カテキン類、ニコチン、レスベラトロール、ビタミンE、亜鉛